

せいふう新聞



風しんについて

◎風しんとは

風しんとは、風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症で、風しんへの免疫がない集団において、1人の風しん患者から5～7人にうつす強い感染力を有します。

風しんウイルスの感染経路は、飛沫感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播します。

症状は不顕性感染（感染症状を示さない）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発疹が長く続いたり、関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。また、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併するなど、入院加療を要することもあるため、決して軽視はできない疾患です。

また、風しんに対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの妊婦が風しんウイルスに感染すると、先天性風しん症候群の子どもが生まれてくる可能性が高くなります。

◎かかった場合

感染すると約2～3週間後に発熱や発疹、リンパ節の腫れなどの症状が現れます。風しんの症状は、子供では比較的軽いのですが、まれに脳炎、血小板減少性紫斑病などの合併症が、2,000人～5,000人に1人くらいの割合で発生することがあります。また、大人がかかると発熱や発疹の期間が子どもに比べて長く、関節痛がひどいことが多いとされています。

また、発疹の出る前後約1週間は人に感染させる可能性があります。

風しんに対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの女性が風しんウイルスに感染すると、眼や心臓、耳等に障害をもつ、（先天性風しん症候群）子どもが出生することがあります。（妊娠1カ月でかかった場合50%以上、妊娠2カ月の場合は35%などとされています。）妊娠中の女性は予防接種が受けられないため、特に流行地域においては、抗体を持たない又は抗体価の低い妊婦は、可能な限り不要不急の外出を避けていただき、やむを得ず外出をする際には可能な限り人込みを避けていただくなど、風しんにかからないように注意してください。また、妊婦の周りにいる人（妊婦の夫、子ども、その他の同居家族等）は風しんに感染しないように予防に努めてください。

◎ワクチンについて

風しんの予防のためには、予防接種が最も効果的です。風疹ワクチン（おもに接種されているのは麻疹風しん混合ワクチン）を接種することによって、95%以上の方が風しんウイルスに対する免疫を獲得することができますと言われてしています。2回の接種を受けることで、1回の接種では免疫がつかなかった方の多くに免疫を付けることができます。

—厚生労働省ホームページより抜粋—

『健康教室』のご案内

日時：11月13日（水）14:00～15:30（開場 13:30）

講演内容：「骨粗しょう症予防について」・「日常生活で出来る簡単な体操」

講師：三島市健康づくり課 保健師 様

場所：芹沢病院 事務所棟 2階 会議室

※骨密度測定ができます！！

※申し込み不要・参加費無料です。ぜひご参加ください。



令和元年度 特定健診(三島市国保・三島市後期高齢者の方)・三島市がん検診実施中！

引き続き、10月末までの期間、三島市の「特定健診」・「がん検診」を行っています！

事前予約が必要なものや、曜日・時間が決まっているものがありますので、ご不明な点があれば、事前にお電話等にてお問い合わせ下さい。ご来院の際は 受診カード を忘れずにお持ちください。

10月は最終月の為、混み合います！健診終了までお時間がかかりますので予めご了承ください。